



保健室だより

令和3年1月15日（金）
鳥取湖陵高等学校保健室

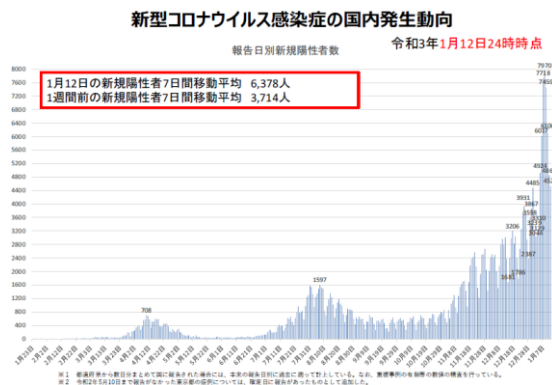
新型コロナウイルス感染症対策はまだまだ道半ばです

新型コロナウイルス感染症という大きな山は、なかなか攻略できない厳しく険しい山です。昨年の1月から、登っても登っても頂上が見えない、そんな山登りを延々としているようです。なかなか頂上が見えないので息切れをしたり、もうやめようかなと思ったりする人もいるかもしれませんが、この山はみんなで登らなくては攻略できないのです。みんなで協力して、新型コロナウイルス感染症予防に今年も取り組んでいきましょう。

右のグラフは、厚生労働省が毎日更新している「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向」です。

みなさん、右のグラフを見て何を感じますか？

昨年3月～5月にかけて第一波の流行期があり、この間の4月16日～5月25日に全国に「緊急事態宣言」が発令され、学校が時間差通学、臨時休校、分散登校になり、非日常を余儀なくされました。そして、夏の第2波から徐々に波が大きくなり、一日の新規感染者数が7,000人を超える等、日々過去最高を記録するという先が見えない状況になっています。



この状況にあって、私達一人一人に求められているのは、感染予防の行動を行い続けていくことです。



注意1) マスクなしでの会話

- ・ マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まります。
- ・ マスクなしでの感染例として、カラオケや外出などでの事例が確認されています。

※ 学校での昼食時間も上記感染例に近い状況にあります。

食べる時はできるだけ話をしないで食べて、食べ終わってマスクをしてから会話をしましょう。



注意2) 居場所の切り替わり

- ・ 授業が終わり休憩に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる場合があります。

注意3) 狭い空間での生活

- ・ 狭い空間で長時間閉鎖空間が共有されることで、感染リスクが高まります。

※ 教室での会話もこの状況に似ています。換気をするよう心がけ、マスクをして会話をしましょう。

県内の感染は家庭内感染が増えています。家や学校にウイルスを持ち込まないために、ウイルスを体に入れないために、**マスクの着用・こまめな手洗い・常時換気**を合言葉に、全員で感染予防対策をしっかり行っていきましょう!!

学校保健委員会を书面開催しました(令和2年12月)

毎年、2学期の個別懇談日の午後に学校保健委員会を開催して、生徒の健康状態について委員の皆様と協議したり、健康課題の改善策について意見交換したりする場を設定していました。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大予防のため书面開催として、委員の皆様からご意見をいただき、保健室だよりで紹介させていただくことにしました。

今月と来月の2回に分けて掲載し、学校保健委員会の報告とさせていただきます。

生徒の健康課題 1 痩せ傾向の生徒が多い 3年生の男子以外は県平均と比べてやせ傾向の生徒が多い。また、1,2年生の男子と3年生の女子は県平均と比べて肥満傾向の生徒も多い。

生徒の健康課題 2 おし歯の処置完了者が少ない おし歯の処置完了者の割合が県平均より少ないために未処置歯者の割合が高く、歯がよい状況とは言えない。

課題1,2への委員の意見

- 学校で、間食にお菓子や甘いジュースを口にする生徒が多く、おし歯の多さや三食きちんと食べないことにつながるのではと想像する。
- 小学校・中学校では給食の後に歯磨きをしていたが、高校に入って昼食後に歯磨きをする生徒は少なく、ジュースを休憩時間飲む生徒も多くいる。そのためか、学年が上がるにつれて歯の状況が悪くなっている。
- 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止が影響しているのか、歯科受診は痛くなければ行かないということも考えられる。
- 歯科受診率58%(1月14日現在):まだの人は早急に歯科受診して欲しい。



生徒の健康課題 4 裸眼視力 A の生徒が少ない割に、視力矯正している生徒が少ない

裸眼視力 A の割合 本校 30.7% 全国 32.5%

矯正視力(眼鏡・コンタクト使用者)の割合 本校 40.9% 全国 48.5%

眼科受診が必要な生徒が受診せず、適切な矯正を行えていない状況にある。

眼科受診率 32% (1月14日現在)

課題4への委員(渡邊眼科学校医)の意見

- 全国平均と比較して、矯正している生徒の割合が低く、眼科受診と適切な眼鏡装着を推奨する。



生徒の健康課題 5 遅刻する生徒が多い

欠席者する生徒は少なくなっているが、その反面遅刻する生徒が多くなっている。遅刻する生徒は決まってくることから、遅刻の多い生徒への面談や個別指導が必要である。



生徒の健康課題 6 相談室を利用する生徒が多い

面談する機会を多く設定したことと、相談室を居場所と考える生徒が一定数いることが考えられ、人間関係をうまく作れない生徒が増加している。

課題5,6への委員(小濱学校医)の意見

- 高校生くらいになると、内科的な疾患より整形外科的な疾患やメンタルヘルスの相談が多い。メンタルヘルスでは、家庭と学校生活の連携をどう取るのかが重要である。

続きは次号へ